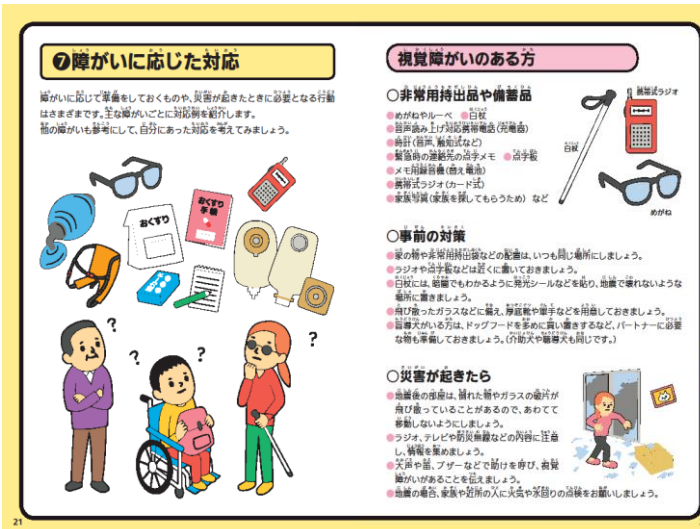


15 障がい者災害対応のてびき

県では、平成30年7月の西日本豪雨災害を教訓に、自然災害や南海トラフ地震等に備えるため、障がいのある方やそのご家族向けに、「障がい者災害対応のてびき」を作成しました。この「てびき」は、災害時において、障がいのある方々が、大切な命を守るための日頃の備えや避難所での生活など、「自助」を中心に紹介していますので、ご自身やご家族に必要な備えを整えてください。

「てびき」は、県障がい福祉課やお住まいの市町の窓口で配布しており、愛媛県ホームページでも公開しています。

アドレス：<https://www.pref.ehime.jp/h15350/bosai-portal/preparation/household/shougaisa-saigaiji-tebiki.html>



障がいに応じた対応

障がいに応じて準備しておくものや、災害が起きたときに必要となる行動はさまざまです。主な障がいごとに対応例を紹介します。他の障がいも参考にして、自分にあった対応を考えてみましょう。

視覚障がいのある方

○非常用持出品や備蓄品

- めがねやルーペ ●白杖
- 音声読み上げ対応携帯電話(充電器)
- 盲点(盲文、録音機能など)
- 緊急時の連絡先の音声メモ ●点字版
- メモ用紙録音機(音声録音)
- 携帯式ラジオ(カード式)
- 家族写真(家族を捜してもらうため) など

○事前の対策

- 家の扉や非常用持出品などの配置は、いつも同じ場所にしましょう。
- ラジオや点字版などは近くに置いておきましょう。
- 白杖には、紐などでわかるように発光シールなどを貼り、地震で壊れないような場所に置きましょう。
- 飛び出たガラスなどに触れ、厚底靴や靴手などを用意しておきましょう。
- 盲導犬がいる方は、ドッグフードを多めに買い置きするなど、パートナーに必要な物も準備しておきましょう。(仔犬や離乳犬も同じです。)

○災害が起きたら

- 避難後の生命は、覆れた筒やガラスの破片が飛び出ていることがあるので、あわてて移動しないようにしましょう。
- ラジオ、テレビや防災無線などの内音に注意し、情報を集めましょう。
- 天井や音、プラーなどで助けを呼び、被災障がいがあることを伝えましょう。
- 避難の場合、家族や近所の人に火災や茶煙りの連絡をお願いします。

目次

- ① てびきの使い方
- ② 災害を知る
- ③ 日ごろの備え
- ④ ヘルプカードの作成
- ⑤ 地震が起きたら
- ⑥ 避難所
- ⑦ 障がいに応じた対応
- ⑧ 関連情報
- ⑨ 私の避難計画

(てびきの一場面) 障がいに応じた対応 (A4サイズ、34ページ)

79